

経営比較分析表（平成30年度決算）

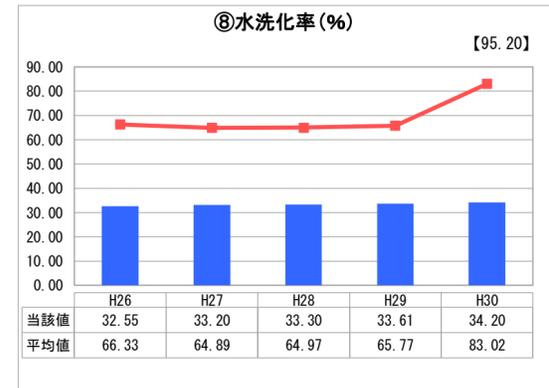
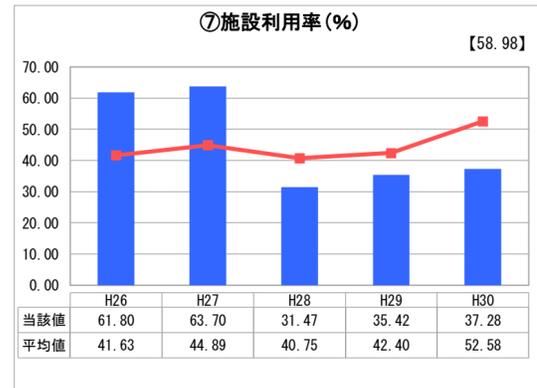
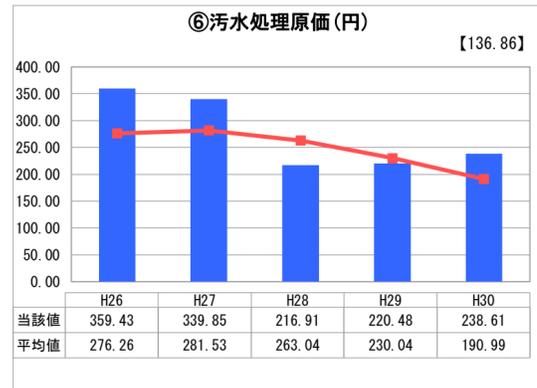
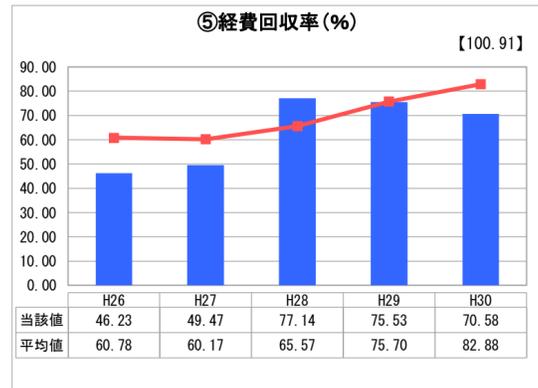
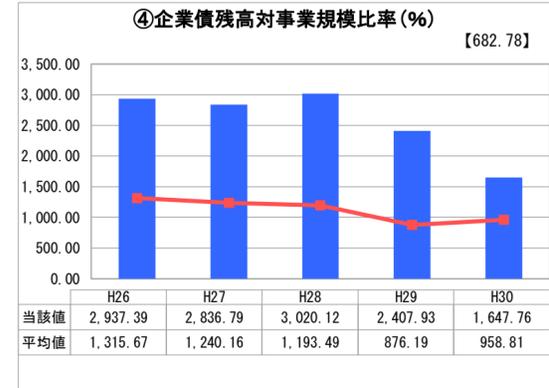
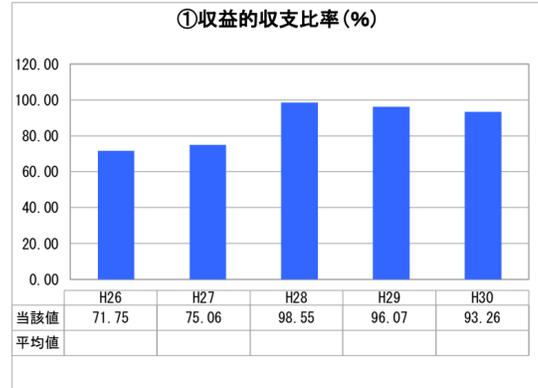
福井県 大野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	51.34	99.54	3,380

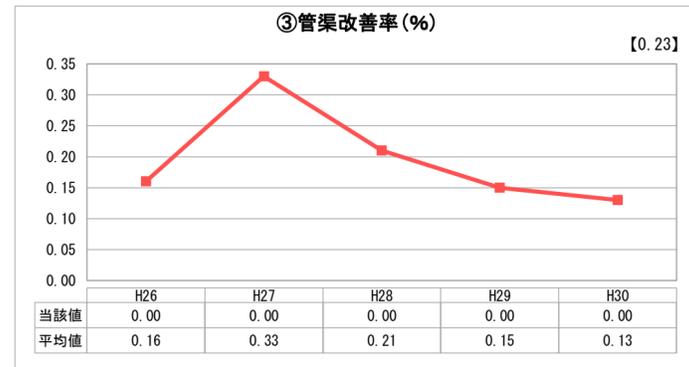
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
33,519	872.43	38.42
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
17,069	5.43	3,143.46

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率、⑤経費回収率から見ると、両者とも100%未満であり一般会計繰入金に依存している状況である。そのため使用料金や受益者負担金の徴収率や下水道への加入率の向上に取り組んでいく必要がある。

④企業債残高対事業規模比率については、前年度と比較すると数値は改善しているものの、依然として類似団体と比べると高い水準となっている。これは、当市は現在、公共下水道を整備中であり、既に整備が完了している他団体とは乖離があると考えられる。

⑥汚水処理原価については、前年度比増となり、類似団体平均値を下回る水準となってしまったため、汚水処理費の改善に努めていく必要がある。

⑦施設利用率については近年右肩上がりでも推移しているが、依然類似団体平均値を下回った状況となっている。これは平成28年度に処理能力増加に係る工事を実施したためであるが、当市では現在、公共下水道整備途中であり、今後も整備エリアの拡大及び加入率の上昇により当該数値も改善していくものと考えられる。

⑧水洗化率については、加入者が増加する一方で供用開始区域も拡大しているため、横ばいとなっており、他の数値と同様、公共下水道が整備中であることが影響している。

2. 老朽化の状況について

当市においては平成8年に公共下水道事業に着手し、また、管渠においては平成10年から整備を開始しており、最も経年している管渠で20年となっている。

従って、耐用年数の観点から考えても、半分以下の経年数となっていることから、現状としては管渠の更新及び老朽化対策は実施していない。

一方で、現在から長期的な視点で長寿命化や維持管理費等の減少等について考えていく必要がある。そこで当市は平成30年度にストックマネジメント計画を作成した。今後は、このストックマネジメント計画の適正に遂行していく。

全体総括

当市は現在、公共下水道を整備途中であり、類似団体とは単純比較できないが、問題点として、接続率が低いことが挙げられる。この問題解決のため、個別訪問による接続促進や、また平成31年度からは接続補助金を新設し接続率向上に努めている。

また、長期的な対策としては、使用料金の確保はもとより、長期的な視点から長寿命化やコスト削減に努めることが重要である。一方で、今後の人口減少等を見据え、農業集落排水などを含め大野市全体として計画を考えていく必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。